



災害時は自分たちでショベルカーを動かして土砂を撤去しました



特集

オモシロイ!

自分たちがと思える地域を目指して

ふるさとへの想い、草刈りがつないだ地域の絆



一声かけたら40名以上集まる河川清掃。



情報発信で七山のみんなをつなぐ

地域おこし協力隊として山口県から七山に家族で移住した野田宗作さん、早百理さんご夫妻。七山が好きになり、任期終了後も七山で暮らしています。地域住民の絆を深めるきっかけになればと七山の情報発信に取り組むお二人。任期中に作成した手書きの地域新聞「ななやま新聞」は住民にも大好評。七山のさまざまな魅力的な情報はSNSなどで地域内外へ届けています。

取材を通じて七山の人とのつながりもできました

外の人と、七山の人をつなぐのが私の役目です



のだ しゅうさく 早百理さん
野田 宗作さん



活動拠点である「ななやままち」。壊される予定だった七山商工会館跡地を引き継いで自分たちでリノベーションをしながら活用しています。

「ゆくゆくは、七山の地域資源を生かした『アミューズメント村』をつくりたい」と語る岡本さん。地元だけでなく、想いに共感する人も巻き込み、七山の「自発の地域づくり」は続きます。

集まり、高校生や大学生の若い世代も参加するなど、新たな賑わいを生んでいます。「約3年で70人程度の規模になり、災害時には自分たちでショベルカーを動かして土砂を撤去したり、情報を発信して地域内外の人に七山を知ってもらう取り組みをしたりと、住民や、七山ファンの皆さんの手で地域をプロデュースする好循環が生まれ始めました。今では、移住のきっかけとなるツアーや交流イベントを行うなど、県内外から人が

七山で生まれ育ち、農家を営むNPO法人七山むらづくり協議会理事長の岡本泰成さん。「5年ほど前の七山は、観光客が減少し、景観もだんだんと荒れてさらに足を運ぶ人が減る状況で、なんとか変えたいと思っていました」。そこでまず始めたのが河川の除草活動。伸び放題の草を刈り、何百本と落ちていた空き瓶を仲間5人で拾い始めました。「家業を継いで10年くらいは、途方もない苦労がありました。そんな時期を地域の仲間が助けてくれたんです。だからこそ、七山を自分たちの手でどうにかせんといかん」と当時を振り返ります。

今回は、住民や周りの団体の共感と協力を得ながら、唐津市七山を人が集まるエリアに育ててきた仕掛け人に、七山の「自発の地域づくり」について話を伺いました。

トピックス

佐賀県地域づくりウェブサイト「さがじかん」

地域を元気にしたい人たちの取り組みや、山や島の情報はじめ、地域の楽しいイベント情報などを発信しています。自分たちの地域が良くなる活動へのヒントがたくさん!



お問い合わせ さが創生推進課
☎0952(25)7376

サイトリニューアル
しました!



いつもみんなが七山の未来を語っています!

NPO法人
七山むらづくり協議会

おかもと たいせい
岡本 泰成さん

